

## 「もっと身近な県事研ビジョンにするために」 ～会員に浸透させるために～

研究部員全員で、「県事研ビジョン」について『熟議』をしました。  
平成22年の県大会で、「県事研ビジョン～広島風おこのみプラン～」を会員のみなさまへ提案しましたが、「県事研ビジョン」が浸透していない現状があります。  
今回『熟議』をすることにより、これからの研究部会での活動の方向性が見えてくるのではないかと考えました。  
いろいろな意見が出て、内容をグループ別に分けると5つの課題になりました。  
それぞれに解決策の案も出ましたので、研究部会で精選し、  
会員のみなさまに伝わるように取り組んでいきます。

※課題  ， 解決策（案）

### ☆見る機会・知る機会

- 県事研ビジョンを意識するのは県大会の時だけ
- 現場の事務職員に伝わる方法がない。
- 数名の部員が県内の会員に広めるには限界がある。
- 事務職員全員が集まる場所での説明ができていない。（紙媒体のみ）
- 全体への周知不足、「伝わる」発信ができていない。
- 人に話をするまで、自分が落とし込めていない。



- 県事研ビジョンを、毎年県大会で簡単に説明する。
- 来年度の研究報告の仕方を変える。
- 時間をあらためてとるべき。
- 研究部員として説明できるシナリオ等を作っておく必要がある。
- 県大会でインタビューする。（出口調査）
- 耳に残るようにテーマソングを作成。HPで流す。
- 市教研等で「めざす事務職員像」を意識した取り組みをする。

## ☆おたより・HPでのアピール

- 県事研HPのアプローチが不十分（更新されていない）
- おたよりがお知らせで終わっている。
- 「広島風おこのみプラン」の配布だけで終わっている。
- 優先順位が低い。



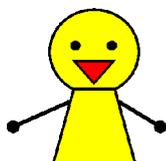
- HPを定期的に見てもらえるよう情報発信していく。（随時更新）
- おたよりはお知らせにとどまらず、具体的実践例などを載せ、会員を引き付ける。
- HP・おたよりで分かりやすく進捗状況を載せる。
- 2学期・3学期末にチラシ（メッセージ）を配布する。

## ☆身近にするには

- 理想像が高すぎて実現不可能な気がする。（絵に描いた餅）
- 内容が抽象的なので、文字を負うのが億劫になる。
- 具体的方法が分からない。
- 日々の仕事に関係ない。
- ビジョンに到達することがどういうことなのか漠然としている。



- 身近な実践例を紹介する。
- 実務と理論をつなぐ分かりやすい説明。
- ステップが必要。
- テーマごとに補足説明をする。



## ☆会員の意識

- 日々の業務が多忙なため、会員のやる気の低下がみられる。
- 県事研が遠い存在となり、ビジョンの流れについていけない。
- 成果が分からないからやりたくない。(徒労感)
- 経営スタッフとしての役割を期待されていないのに事務職員が頑張っても無駄。(やっても評価されない)



- 「広島風おこのみプラン」のそもそも論を説明し、理解・共感を得る。
- 自分のキャリアが客観的に見られるシートを策定する。
- 校長会・教頭会との協同研究。

## ☆会員の思い

- 会員がどう感じているか分からない。
- 会員の意見が拾いにくい。



- 会員の思いが聞けるようなアンケートなど考える。(県大会)

## ☆その他

50代の事務職員にとっては、県事研ビジョンは仕事をするうえで取り組んでいるべきものであり、基礎となるものであると考えているのではないかと。よってすでに浸透しているはずだろう。

